

グローバル・カフェ 留学報告イベント(チェンマイ大学、真理大学)を開催しました

2024年10月11日(金)、留学報告イベントを実施しました。タイ・チェンマイ大学へ留学した米須千尋さんと杉村朔良さん、台湾・真理大学へ留学した金山未佳さんが、現地での授業の様子や生活などを紹介しました。日本人学生13名、留学生1名、教職員3名の計17名が参加しました。



2023年10月~2024年3月の間、チェンマイ大学へ留学した米須さんは、自分の留学目的について、英語を使用する環境で学ぶこと、チェンマイに住む少数民族がどのように保護され、共存しているかを知る、将来の夢が入国審査官であることから、自ら異国に住むことで、日本の在住外国人の心情を理解することであったと述べました。現地での授業(90分間)はすべて英語ですすみ、履修した授業「タイ社会と文化」「世界都市チェンマイ」「タイ法学」「言語学」は、いずれも授業内での発言を常に求められ、プレゼンテーションの機会も多かったことから、英語には苦戦したと振り返りました。滞在中には首長族として有名なカレン族と、タイ北部山岳地帯の標高1000m前後の山地に住むラフ族の村を訪問したそうです。それぞれ無国籍問題、教育格差、経済的な問題などを抱えているなかで、見世物小屋との批判もあるが収入源を観光業に頼らざるを得ない状況であると述べました。カレン族の村では、実際にホームステイを経験し、カレン族の方の温かい歓迎を受け、自然と共存している彼らの生活を垣間見ることができたことは、かけがえのない思い出になったと話してくれました。



米須さんと同時期にチェンマイ大学へ留学した杉村さんは、「日ASEAN ユース・フォーラム」への参加がきっかけで日本とASEANの連携の重要性を再認識し、ASEAN加盟国への留学経験は将来必ず日本の役に立つと考えたそうです。チェンマイ大学では「タイ社会」「タイ法学」「世界都市チェンマイ」を履修し、「タイ社会」の授業内では日本は学ぶ機会の少なかったLGBTQ理解促進への取組にどうアプローチするかについて、多国籍なメンバーとともにグループ発表を行ったことが印象に残っていると述べました。

米須さんと同時期にチェンマイ大学へ留学した杉村さんは、「日ASEAN ユース・フォーラム」への参加がきっかけで日本とASEANの連携の重要性を再認識し、ASEAN加盟国への留学経験は将来必ず日本の役に立つと考えたそうです。チェンマイ大学では「タイ社会」「タイ法学」「世界都市チェンマイ」を履修し、「タイ社会」の授業内では日本は学ぶ機会の少なかったLGBTQ理解促進への取組にどうアプローチするかについて、多国籍なメンバーとともにグループ発表を行ったことが印象に残っていると述べました。

大学キャンパスについては、とても広大で、各学部の1階にはカフェ、レストラン、スナック売場等が充実しており、学生らは学部間の移動にシャトルバスを利用していると話しました。滞在していた寮は清潔でホテルのようであったが、水が決まった時間に出ない、頻繁な停電、謎の虫に嘔まれ病院に行くことになったなど、苦勞することもあったそうです。留学を終えて、



沢山の価値観、新たな文化・生活を知り、自分の世界や考え方が広がった、タイの人々の温かさや寛容さに触れ、自己研鑽することができたと話し、今後もタイの友人との交流を続け、タイと日本の懸け橋になりたいと意気込みを語ってくれました。



2023年2月から11か月に及ぶ台湾・真理大学での留学生生活を終えた金山さんの留学目的は、アジア経済について学び、アジア圏の貧困層に有利に働くような経済、金融システムに関する知識を身につけること、今後需要の増加が見込まれる中国語能力を磨くとともに、英語力の向上も図ることであったそうです。現地では「企業倫理」「マクロ経済学」「社会経済問題」「経済数学」「国際企業管理」「財政学」「貨幣銀行学」を履修し、1コマ50分、授業間の休憩は5分、授業はすべて中国語で進んだと話しました。初めは授業のペースについていけず、授業中にスクリーンに映し出されているスライドの写真を取り、授業後に見直ししながら復習することが日課だったと振り返りました。慣れるまでは大変だったが、目標として掲げていた HSK6 級（難易度の高い中国語国家試験上級レベル）相当の資格を取得できたことは自信にも繋がったと笑顔で続けました。経済、金融に関する授業を多く履修したことによって多くの学びを得られたので、引き続きアジア圏の経済について、留学中に学んだことを生かしながら知識を深めたいと意気込みを語ってくれました。

学校外活動では週20時間までアルバイトが可能（要申請）であり、現地での就労を経験したかったことから、台湾文博会（台湾の伝統文化や現代デザイン、クリエイティブ産業の展覧会）での誘導スタッフや、真理大学内での通訳兼サポーターなどのアルバイト活動にも挑戦したそうです。通訳兼サポーター業務は真理大学から依頼された業務であったそうですが、自ら時給の値上げ交渉を行い、時給の値上げに成功したという裏エピソードも聞かせてくれました。



3名とも口をそろえて、もし留学を迷っているなら、ぜひ挑戦してほしい。大変な経験もしたが、収穫の方が断然多かった。もう一度行けるなら絶対行く！と参加者へエールを送ってくれました。米須さん、杉村さん、金山さん、貴重なお話をありがとうございました。